

# J Aグループ鳥取自己改革推進レポート（7月号）

## 1. J Aグループ鳥取の取り組み

### ① 国際協同組合デー第32回鳥取県の集い

J Aグループ鳥取や生協、漁協、森林組合、中国労金、ワーカーズコープで組織する鳥取県協同組合連絡協議会は7月13日、鳥取市で第100回国際協同組合デー第32回鳥取県の集いを開いた。協同組合の価値・原則を再確認し、持続的な組織活動や地域社会との関わりを深めるため、協同組合間の連帯を一層強化していくことを確認した。

WEB出席を含め、約90人の役職員が参加した。鳥取県生活協同組合連合会の松軒浩史会長は「協同組合の果たすべき役割や期待が高まっている。協同組合間の相互理解を深め、連携を強化していく」と意気込んだ。

各組織の代表が地域貢献活動の事例を発表。J A鳥取いなば経済部の泉孝治次長はJ A鳥取いなばの子会社トスクの取り組みを報告。移動販売車を中山間地域で運行し、地域の見守り活動も担っていることを紹介するなど、参加者は協同組合活動に対する思いを一つにした。



### ② 鳥取県市長会へ生産資材高騰にかかる緊急要請

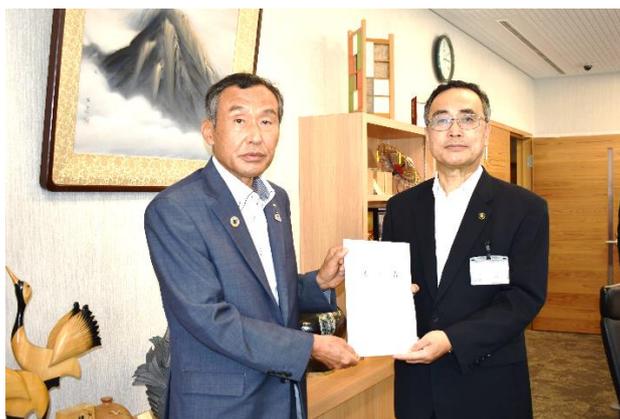
J A鳥取県中央会と県農協農政協議会は7月13日、鳥取市で鳥取県市長会の会長を務める鳥取市の深澤義彦市長に生産資材高騰にかかる緊急要請対策を国などに要請するよう訴えた。中央会の栗原隆政会長が深澤市長に要請書を手渡した。

燃料や肥料、飼料などの生産資材の価格高騰が続く中、農業者が持続的な生産振興が続けられるよう緊急支援を求めた。飼料高騰や新型コロナ禍の影響で農家所得が減少するなど経営環境がひっ迫しており、今後、離農者の増加や、後継者・新規就農者の不足が懸念される。

市長会に対しJ Aグループ鳥取は、国による地方創生臨時交付金を活用した独自の支援策を講じるよう要請した。

栗原会長は「国や県へ緊急支援対策の後押しをしていただきたい」と訴えた。深澤市長は「喫緊の課題と認識している。市長会として、県と協調して対応したい」と応えた。

J Aグループ鳥取は7月19日に鳥取県町村会への要請活動や、25日は全国知事会や全国市長会などの地方6団体と連携し、国への働き掛けを行った。



## 2. 大山乳業農業協同組合の取り組み

### 6月牛乳月間、消費拡大に向けて

6月の牛乳月間と父の日に合わせて、大山乳業農協は6月16日、鳥取県の平井知事を表敬訪問し、コロナ禍による外出機会減少で消費が落ち込んでいる牛乳・乳製品の消費拡大に向けて、平井知事へ牛乳のギフトセットを贈った。

小前組合長と酪農青年部の山下部長は、平井知事に現在の厳しい酪農情勢に対しての鳥取県からの支援に感謝を伝え、今後の生乳生産への意気込みとともに、夏の暑さに負けないよう「牛乳を飲んでほしい」と呼びかけた。



## 3. 鳥取県畜産農業協同組合の取り組み

### ① ホームページリニューアルによる情報発信力の強化

鳥取畜産農協は、積極的な情報発信による持続可能な循環型農業の推進と鳥取県産牛の販売力強化のため、4月1日にホームページを全面リニューアルした。

特に鳥取こめ育ち牛やコントラクター部門のページにおいては、「牛糞から堆肥⇒堆肥から飼料稲と飼料用米の栽培⇒自給飼料による肥育」などの耕畜連携の取り組みについて詳しく説明している。併せて鳥取県畜産農協のSDGsの取り組みについても専用ページを設けて説明している。



### ② テレビコマーシャルによる鳥取こめ育ち牛のブランド力の強化

鳥取こめ育ち牛と耕畜連携の取り組みをより広く消費者にアピールするため、テレビコマーシャル用の動画を作成した。4月5日から山陰中央放送のめざましテレビ内で毎週火曜日の朝6時45分頃に放映している。

また、この動画については、一部店舗でのデジタルサイネージ広告にも活用している。



#### 4. JA全農とっどりの取り組み

##### ① 「らっきょう漬け方動画」「鳥取すいか産地PR動画」を作成

鳥取県産農産物の本格出荷とあわせ、短くてわかりやすい「鳥取のらっきょう簡単漬け」ショート動画を作成。

また、鳥取すいかの魅力を多くの方に知ってもらうため、圃場での作業風景や選果場の様子を撮影し、「鳥取すいか」産地PR動画も作成した。

動画は、Youtube 配信および本会ホームページへ掲載を行い、7月7日現在の再生回数は、「鳥取のらっきょうかんたん漬け」712回・『鳥取すいか』産地PR」105,430回となっている。



##### ② 大阪駅で「星空舞」「鳥取すいか」PRイベントを開催

6月18日に大阪駅ステーション内、旅立ちの広場にて「星空舞」「鳥取すいか」PRイベントを開催した。

会場では、七夕を想起させる演出や「星空舞」「鳥取すいか」を展示したモニュメントを設置し、Instagramにモニュメントの写真を投稿した人を対象に「星空舞」「鳥取すいか」の関連グッズをプレゼントした。上記イベントと合わせ、6月17日～23日の間、大阪駅北側のキッチン&マーケット、ルクア大阪店にて「とっとりフェア」を開催し、「星空舞」「鳥取すいか」を販売した。



## 5. JA鳥取信連の取り組み

### 大規模な担い手への対応強化の取り組みについて

信連は、第50回JA鳥取県大会の決議事項のうち「大規模な担い手への対応強化」を重点取組施策として、以下の取り組みにより担い手の経営基盤づくりを支援している。

令和3年度から取り組みを開始した担い手コンサルティングについては、令和4年度においても、県下で2先の農業法人に対して取り組んでおり、経営課題を見える化する中で、ソリューション（課題解決策）を提案していくこととしている。

今後も、JA・農林中央金庫と連携し、担い手への同行訪問を通じ経営課題の把握や相談対応などにより関係構築を図っていく。

また、農林中央金庫主催の「担い手コンサルティング実践研修」および「農業融資実践力強化研修」を活用し、担い手コンサルティングの人材育成を行う。

#### 【担い手コンサルティング取組先とソリューションの提案方向】

取組先	主要品目	実施主体	ソリューションの提案方向
A 農事組合法人	水稻	いなば	作付品目の見直しによる収支改善、圃場拡大など
B 株式会社	酪農	信連	農場長確保のための人材紹介サービスの案内、外国人実習生のための業務マニュアルの作成など

## 6. JA共済連鳥取の取り組み

### 鳥取県警察への交通安全資材の寄贈について

JA共済連鳥取は、6月6日に交通安全資材「和風反射タスキ」寄贈式を行った。交通安全資材の寄贈は平成30年より実施している。

鳥取県警察では、交通事故防止活動の取り組みに「歩行者優先と正しい横断の徹底」を掲げ、歩行者を交通事故から守り、悲しみを生まないための活動を推進している。

当会は、「和風反射タスキ」7,000本を鳥取県警察本部へ寄贈し、この取り組みに役立てていただく。

寄贈式では、JA共済連鳥取 森山本部長から鳥取県警察本部 柴田交通部長へ目録が渡され、柴田部長からは、「昨年は歩行者が当事者となる交通事故が110件発生しました。この度寄贈いただいた「和風反射タスキ」を昼夜を問わず着用することで歩行者の安全確保に活用させていただきます。」と謝辞を述べた。



以上